

ひとり1改革運動

「県民サービスの向上」改革賞

1. 一時的「下大静脈フィルター」固定用具の開発

静岡がんセンター 看護部



新たに開発した固定用具

血栓症の治療では、血栓をとらえるフィルターを静脈内に留め置く方法が用いられますが、従来は点滴用バルブをバンドを使って頭部に固定していただけで不安定な状態にあり、静脈内のフィルターが移動してしまう、起き上がりや寝返りなど日常の基本動作が制限され患者さんにストレスをもたらすといった課題がありました。

そこで、看護師の発案をもとに不安定状態を解消する新しい固定用具を企業等と共同で開発し、患者さんの負担軽減を実現しました。

【下大静脈(かだいじょうみゃく)】 下肢や腹部等から集まる静脈血を心臓に送る静脈

明治大学 公共政策大学院 北大路教授から一言

現場の「改善力」こそが「品質経営」を支える重要な部分です。もっといい道具が無いか、と思ったとき、誰かがいつか開発してくれるといいな、で終わってしまうのではなく、職員自らが果敢に挑戦して成功してしまう。そんな凄い現場がここにもありました。海外の行政機関にも誇ることができる静岡県の実力が示されていると思います。

2. 多部局にまたがる情報を一元化し、利便性アップ!

産業部 農業振興室



「アグリネットしずおか」トップページ

<http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-310a/>

農業関連の情報は担当部署がそれぞれ発信していたため、必要な情報を探すことに時間がかかり、利用者の利便性向上が必要でした。

そこで、ホームページ「アグリネットしずおか」を農業関連情報を一元的に発信するポータルサイトとしてリニューアルし、消費者向けと農業関係者向けの2つに分け、その下に目的別に分類した情報を並べて探しやすくするなど、利用者の利便性を向上させました。

静岡産業大学 大坪学長から一言

利用者の根本的なニーズに応えた事例です。農業をビジネスとして捉えると総合的・統合的な情報提供と支援が必要で、産業部に農業関係部署を組み入れた組織再編の効果とも言えると思います。

3. 家族で美術鑑賞を楽しむきっかけづくり

県立美術館 総務課・学芸課



配布した特別ちらし(小学生向け)

県立美術館を身近に感じてもらい、より多くの方に来場していただけるよう、割引サービスや夕食付きファミリー鑑賞会の開催、静岡市文化施設との共催によるスタンプラリーなど、様々な工夫を行っています。

今年度から小中学生の特別展観覧料を無料としましたが、夏休み期間の「国宝鑑真和上展」では、同伴者の割引券としても利用できる特別ちらしを全小中学生に配布し、家族で美術鑑賞を楽しむきっかけを提供しました。

明治大学 公共政策大学院 北大路教授から一言

昨年の4倍の子ども達がやってきた、という成果に脱帽します。“知ることを楽しむ子どもを親御さん達と一緒に育てたい”というメッセージが、工夫された様々な仕掛けや配慮を通じて県民の皆さんにも伝わったのだと思います。このような知的文化的充足感を子ども達に提供できる美術館は、県民にとって素晴らしい財産です。

4. 洗濯機使用の苦情をなくそう

こころの医療センター 看護部



洗濯機に表示した使用ルールの張り紙

異性に洗濯物を見られる、長い待ち時間、洗濯物の放置、横入りなど、入院患者さんから洗濯機使用に関する苦情が多かったため、対策を検討しました。

男女別に使用日を設定したほか、まとめ洗いの推奨、使用者ノートによる順番の見える化、使用手順の掲示などにより洗濯機使用に関するルールの徹底を図り、患者さんの不満を解消することができました。

5. インターネットラジオによる外国語広報の強化

県民部 多文化共生室



インターネットラジオ

年々増加している南米系外国人の方に県政情報を伝達するためのポルトガル語による広報について、これまでのFMラジオからインターネットラジオに切り替えました。

広報費用の削減が図られる一方、放送回数・時間が増加し、放送時間帯を利用者の多い夕方に変更したことで、より効果的な情報提供ができるようになりました。

6. 法人二税申告書受付臨時窓口の設置



「受付臨時窓口」の様子

沼津財務事務所 直税第1課

3月期決算法人の法人二税(事業税・県民税)の申告期限である5月末は申告書の提出が集中し、庁舎5階の窓口が非常に混雑して申告者に大きな負担となっていました。

そこで、申告期限の前日と当日に庁舎1階に臨時受付窓口を設置し、受付時には着席して申告してもらうことで、申告者の負担軽減と時間の短縮を実現することができました。

7. 不法投棄撲滅対策の体系的見直し



「不法投棄」現場

環境局 廃棄物リサイクル室

不法投棄撲滅対策については、事業者数が多いことや県土が広いことなどから全てに目配りすることが難しく、限られた人員等の中でより効率的に行う必要がありました。

そこで、業務棚卸表を参考に全ての業務について対象や効果、方法等を見直し、「すぐ実施」「今年度中に実施」など実施時期を定めて実施可能なものから取り組むこととし、より効果的な対策の実施を通じて県民の安全・安心の確保に努めています。